

# 第1章 地方人口ビジョン

## 1. 八百津町人口ビジョンについて

### (1) 人口ビジョン策定の目的

「八百津町人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重し、八百津町の人口の現状を分析するとともに、人口に関する地域住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。同時に、「八百津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の前提となるビジョンです。

### (2) 対象期間と推計ベース

人口ビジョンは、国勢調査による人口をベースとし、必要に応じて住民基本台帳による人口やその他資料を用いて分析、推計を行います。また、短期目標を2020年、中期目標を2040年、長期目標を2060年とします。

### (3) 将来人口の推計について

将来人口の推計については、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という）による『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』、日本創成会議事務局による推計値（ただし2040年まで）を参考としながら、独自の推計を行い、人口の将来展望を示します。

### ※技術的な注釈と用語の説明

#### 【端数処理について】

人口ビジョンにおける人口の将来推計値、その他比率等の端数については、数表の内数の見かけ上の和と合計数が一致しない場合があります。

#### 【合計特殊出生率（TFR:Total Fertility Rate）】

ある期間（年間など）に生まれた子どもの数について母の年齢別に出生率を求め合計したものです。仮想的に1人の女性が一生に生む子どもの数を計算したものといたします。

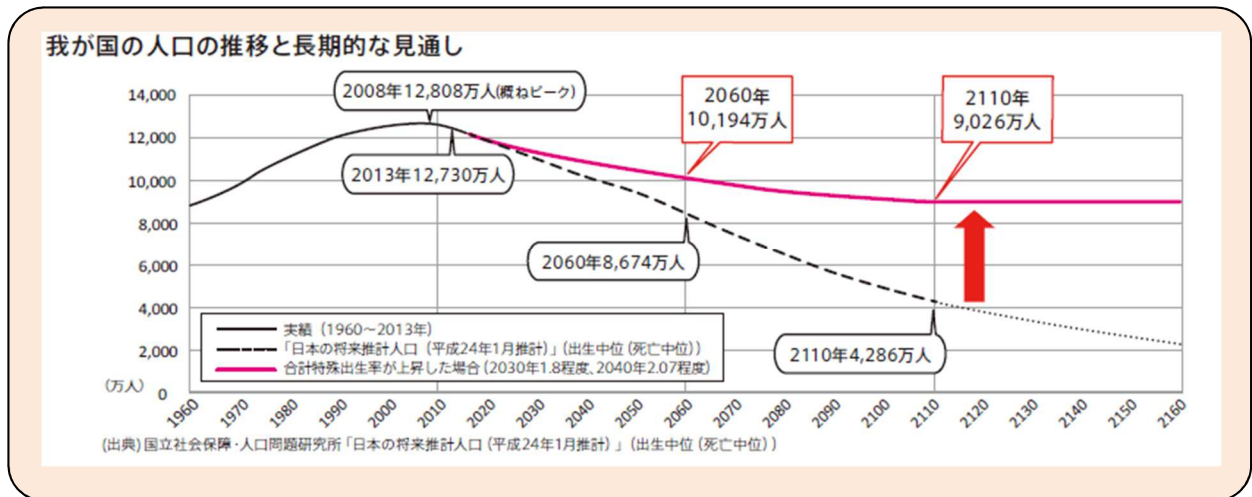
#### 【子ども女性比（CWR:Child-Woman Ratio）】

ある時点で0歳から4歳までの人口と出産年齢（15歳から49歳）の女性人口の比率です。ここで、対象集団が充分大きい（ex.3万人以上の自治体）、対象集団と標準人口の乳児生残率の乖離が充分小さいなどの前提があれば、合計特殊出生率との間に一定の換算比率を設定することができるとされています。なお、社人研・日本創成会議による推計では、小規模市町村での合計特殊出生率による将来推計に誤差が予想されることから、将来における子ども女性比を想定することによって出生児数の推計を行っています。この人口ビジョンの骨格をなす推計もこれに従っており、合計特殊出生率と子ども女性比の換算比率を利用してシミュレーションを行っています。

## 2. 全国と岐阜県の総人口

### (1) 国の人口推計と長期的な見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位（死亡中位））によると、2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね300万人程度少なくなると推計される。



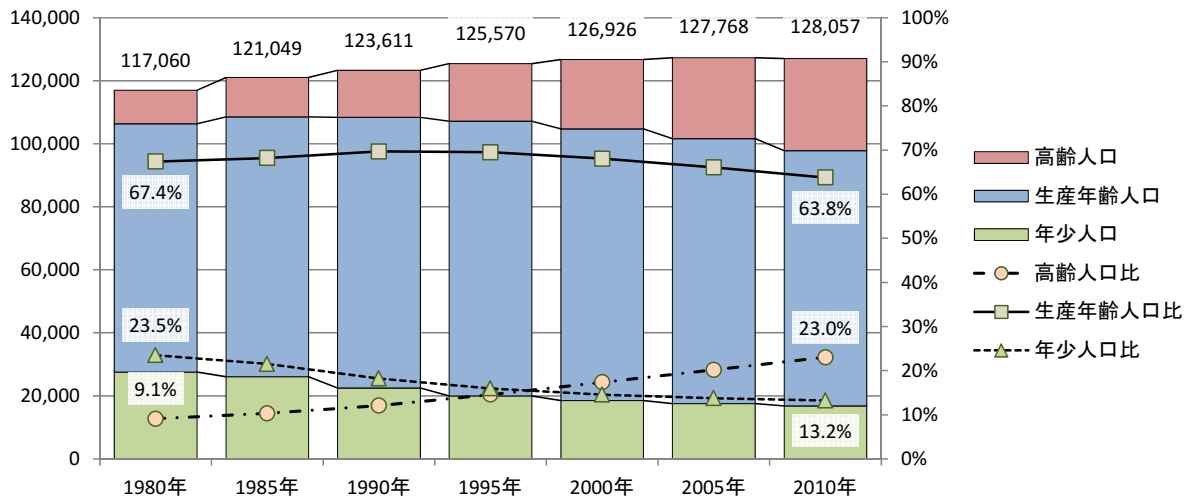
(内閣官房「まち・ひと・しごと創生本部資料」より)

## (2) 国と県の年齢3階層別人口の推移

この30年間の全国と岐阜県の総人口の推移を国勢調査結果からみると、全国では2010年、岐阜県では2000年に総人口のピークを迎え、年少人口の急速な減少と高齢人口の増加を示しています。2010年の年少人口比は全国で13.2%、岐阜県で14.0%、生産年齢人口比は全国で63.8%、岐阜県で61.9%、高齢人口比は全国で23.0%、岐阜県で24.1%となっています。

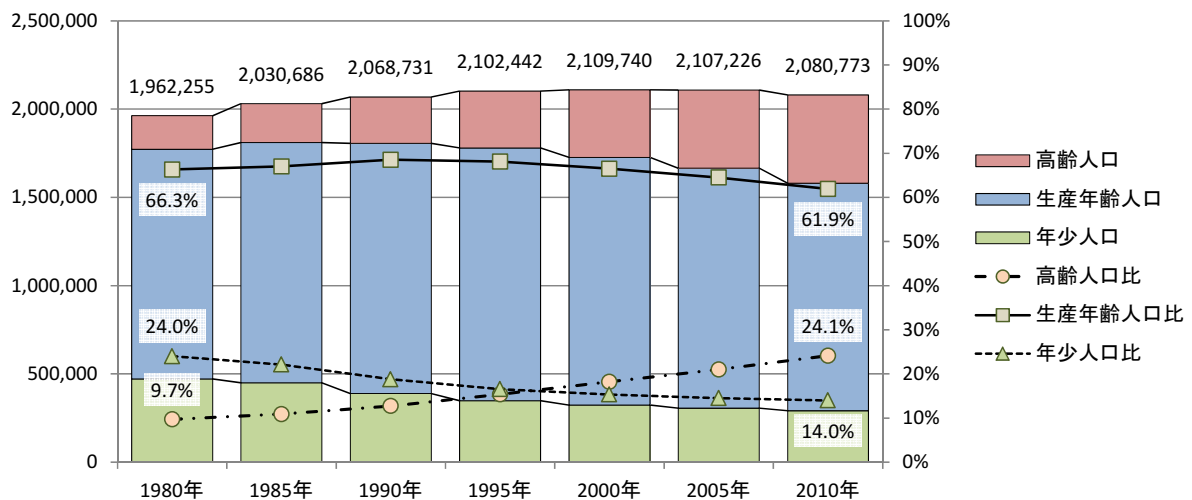
これらの人口と比率は、八百津町の総人口と人口動向を分析する上での基準となります。

### 全国の総人口と3階層別人口の推移（千人）



(出典：国勢調査)

### 岐阜県総人口と3階層別人口の推移（人）



(出典：国勢調査)